

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 97号

2014/06/16 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、 市況の動き：両市場とも週前半は続伸、ニューヨークは週末に3年ぶり高値

① 最高：9月 LDN 市場£1,958 /9月 NY 市場\$3,103 (6/11,13) 先週比 **LDN +£10/NY +\$15**

② 最低：9月 LDN 市場£1,930 /9月 NY 市場\$3,062 (6/12) 先週比 **LDN-£11/NY-\$7**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£28 (傾向↑) / NY 市場\$41 (傾向↑)

週内建玉推移：LDN市場 265,913 枚(6/6 終了時)⇒265,658 枚 (6/12 終了時) **-255 枚**

NY市場 220,603 枚(6/6 終了時) ⇒210,371 枚 (6/12 終了時) **-10232 枚**

【6月9日(月)】ニューヨーク、小幅安=ロンドン反発

ニューヨーク市場の7月きりは小幅続落し、2ドル(0.06%)安の3077ドルで終了。前週末には一時、3年ぶりの高値に近い水準の3106ドルまで上昇していた。ただ、消費用と商業用の需要が堅調に推移する中、供給逼迫(ひっばく)への懸念は引き続き下支え要因となった。

ロンドン市場の9月きりは反発し、3ポンド(0.2%)高の1944ポンドで引けた。CMEグループの農産品部門の責任者は、ロンドンが拠点となっているココア先物市場に今年終盤か来年の序盤にも参入する計画を明らかにした。

【6月10日(火)】両市場とも小幅高=供給不足観測

ニューヨーク、ロンドン市場ともに小幅上昇した。農産物商社オラム・インターナショナルによると、2014~15年度の世界のカカオ豆市場は3年連続で供給不足になる見込み。

ニューヨーク市場の9月きりは5ドル高の3085ドルで終了した。7月きりは3087ドル。ロンドン市場の9月きりは4ポンド高の1948ポンドで引けた。

【6月11日(水)】両市場とも続伸=堅調な消費やヘッジ取引で

両市場とも続伸。堅調な消費の伸びや商業筋のヘッジ取引に下支えられた。ニューヨーク市場の9月きりは17ドル(0.6%)高の3102ドルで終了。ロンドン市場の9月きりは10ポンド(0.5%)高の**1958ポンド**で取引を終えた。

【6月12日（木）】両市場とも反落

両市場とも反落。ニューヨーク市場の9月きりは40ドル（1.3%）安の3062ドル、ロンドン市場の9月きりは28ポンド（1.4%）安の1930ポンドで引けた。

ニューヨーク市場の9月きりは一時3119ドルと、3年ぶりの高値をつけたが、その後は値を消した。ロンドン市場の9月きりも一時1964ポンドと、2011年8月以来の高値をつけた。

【6月13日（金）】両市場とも反発＝ニューヨークは約3年ぶり高値

ココア先物は、堅調な需要見通しに支えられ、反発。ニューヨーク市場の9月きりは、41ドル（1.3%）高の3103ドルで引けた。一時は3125ドルと、約3年ぶりの高値を付けた。

アムステルダムで今週開催された世界カカオ会議では、大手商社やチョコレート製造業者らが、2013～14年度の供給不足を予想した。国際ココア機関（ICCO）も、7万5000トンの供給不足を予想している。ロンドン市場の9月きりは、9ポンド（0.5%）高の1939ポンドで引けた。

2、コートジ：アジア・欧州の需要増によりカカオ豆価格上昇(6/14)

アジアや欧州での需要の高まりにより、世界第一位のカカオ豆生産国であるコートジのカカオ豆価格が上昇している。この価格上昇で、隣国のガーナからのカカオ豆の密輸が加速している。

世界のカカオ豆価格は今年初めから着実に上昇してきており、先週の火曜日にはチョコレート消費量の増加に期待が高まったことや、カカオ豆の供給不足により33カ月ぶりの高値を付けた。

コートジ政府は2013/14期の始まりである10月初めに、農家最低保証価格をkgあたり750CFAフラン（約1.55ドル）に定めた。また港渡価格の最低水準は830CFAフラン（約1.6ドル）、最低価格は845CFAフラン（約1.69ドル）となっている。

欧州のカカオ豆輸出業者はロイターに対し「カカオ相場は高騰している。我々カカオ輸出業者はなるべく多くのカカオ豆を抑えようと探求めている。欧州からの需要は依然として強いが、アジアの需要がそれを加速させている。インドネシアから我々に、カカオ豆がないかとの問い合わせが来ているほどだ。」と述べた。

彼はまた「コートジのアビジャン港渡価格は850CFAフランになっており定められた最高価格をこえている。高い価格で買うことで輸出基準を満たした良い品質の豆を保証されているのだ。」と加えた。

コートジは現在、4月～9月のミッドクロップを収穫している。通常ミッドクロップに収穫されるカカオ豆はメインクロップと比べ小さい為、国内の圧砕業者を買われている。しかし今シーズンのミッドクロップの品質は非常に良い。

コートジ東部のAbengourouの農業組合は「商社が政府の定めた保証価格よりも高い価格でカカオ豆を買っている。この豆はコートジ産だけではなくガーナから密輸されたものもある。」と述べた。

また他の農業組合は「ガーナ産カカオ豆に対しては760～780CFAフラン（約1.52～1.56ドル）しか支払われない。だからガーナ人は自分たちのカカオ豆のうち品質の良いものを国外へ持ち出している。」と述べた。

ガーナとコートジという隣り合わせの2国間でシーズンの初めに定められた保証価格が大きく異なる。それに

加え、ガーナ通貨のセディが今年初めから対米ドルで約 28%下落しており、2 国間のカカオ豆価格の値差を大きくしている。Abengourou の農家は「国境付近の農家はカカオ豆を売りにコートジに集まっている。ガーナ人はガーナセディよりも CFA フランを好む。」と述べた。

3、ガーナ：密輸防止のため、カカオ豆価格を引き上げる(6/11)

ガーナは、隣国コートジへのカカオ豆の密輸がそこまで魅力的なものとならぬよう、来期のカカオ豆の固定価格を引き上げる見通しだ。ガーナからコートジへのカカオ豆の密輸はまた、ガーナセディの下落も起因している。ガーナのカカオ豆監督機関である Cocobod の長官である Stephen 氏は「ガーナ政府はセディを安定させるためにあらゆる手段をつくしている。目標としては新しい価格が決まる 9 月までにセディが安定し、農家に安心感を与え、誰ももう密輸などしなくなるようにすることだ。」と述べた。

10 月 1 日から始まる 2013/14 期の価格が決定されたとき、ガーナのカカオ豆価格は 3,392 セディ/トンでありこれはコートジでの農家最低価格である 750CFA フランと同じ水準であった。しかしガーナセディは今年、対ドルで 20%以上下落し、2 国間でのカカオ豆価格に差が生じてしまった。ちなみに来期のコートジの最低保証価格は 800CFA フランに上げる見通しだ。

4、インドネシア：カカオ豆の国家規格を強制化へ(6/11)

11 日付のビジネス・インドネシア紙によると、同国政府はカカオ豆の国家規格を強制化することを決めた。5 月 21 日に公布したカカオ豆の品質と販売条件に関する農相規定（2014 年第 67 号）で定めたもので、同規定は公布の 2 年後から施行される。

農業省のユスニ・エミリア・ハラハブ農産物加工販売総局長は、国家規格の強制化に関しカカオ豆の品質改善による農家の収入拡大を目的としていると説明。施行までの 2 年間は育成期間とし、農家に対して品質の改善についての教育などを実施すると述べた。同規定が施行されると、カカオ豆を販売するためには、産地に関する説明書と品質に関する証明書により、品質の基準を満たしていることを示すよう義務付けられる。

5、今年のカカオ豆需要の伸び、業界予想には届かず=米ブロマー幹部の見通し(6/11)

北米最大のカカオ豆圧砕会社、ブロマー・チョコレート社のジェフ・ラシンスキ氏（調達部門責任者）は 10 日、2014 年の世界のカカオ豆圧砕高は過去最高だった前年を上回るものの、需要の伸びは業界予想には届かないとの見通しを示した。

同氏はロイター通信に対し、14 年のカカオ豆需要の伸びは 2.1～2.2%にとどまると予想、昨年同社見通し（2.5～3%）を引き下げた。

圧砕大手各社はチョコレート消費が急増しているアジアで圧砕工場の建設を進めている。同氏は「アジアで圧砕能力が過剰になるのは間違いない」と指摘、特にアジアで需要の伸びが鈍化すると分析した。国際ココア機関（ICCO）は 13～14 年度のカカオ豆圧砕高を前年度比 2.7%増の 420 万トンと予想している。

6、コートジ：大量の降雨が 카카오農家の不安を駆りたてる(6/10)

コートジのカカオ豆主生産地で大量の雨が降ったにもかかわらず、日射しが十分でなかったため、病気の蔓延の懸念が生じ、またカカオ豆の乾燥を阻害するという問題が起こっている。

高地の農家は、天候が次のメインクロップに与える影響について不安を抱いている。

ある農業気象士は「今月は大量の雨が沿岸沿いや森林地帯に降るだろう。西部の Soubre では先週は 56 mm であったが今週は 123 mm の降雨が予測されている。」と述べた。

Soubre の農家は「かなり大量の雨が降って、多くの低地帯では水浸しの状態だ。我々は虫の発生を恐れている。多くの農家は今週の収穫についてはペースを落としている。」と述べた。

南部の Divo の農家は「少なくとも激しい雨が 5 回降って、カカオ豆の乾燥を妨げている。曇りや雨続きでカカオ豆の乾燥が難しいという一方で、この天候を利用し新たな果樹園を作ろうとしている農家もいる。降雨は一般的に新たに果樹園を作るのに適している。」と述べた。

西部の Daloa の農家は「大量の雨によってミッドクロップの収穫期が昨年より長引くだろう。」と述べた。沿岸部の SanPedro では 6 日間雨が降り続いていて収穫を困難にしている。ある農家によると雨によってカカオの木の下部が水につかっているという。この状態が長引くと植物が呼吸できなくなり枯死してしまう懸念がある。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp